



## 一村一志

「夢の芽生える文化」創造のプラットホーム  
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な  
地域を創出することをめざして活動します。

### 「福島」を繰り返さないために

2011年3月11日午後2時46分18秒。宮城県仙台市の東方沖70km、太平洋の海底を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生しました。この地震のマグニチュードは9.0、日本周辺における観測史上最大の地震です。最大震度は宮城県栗原市の震度7。宮城・福島・茨城・栃木の4県36市町村で震度6強を観測しました。



福島第一原発3号炉が水蒸気爆発した瞬間

この地震によって、福島県双葉郡大熊町で運転中の東京電力福島第一原子力発電所の原子炉1、2、3号機は、自動的に制御棒が上がり緊急停止しました。「原子炉スクラム」とよばれる異常時の制御動作です。

同時に、発電所周辺では、送電線が地震の揺れで、ショート、切断し、送電用の鉄塔1基が倒壊。また、変電所や遮断器などの各設備が故障したりして、外部電源を失いました。

このため、構内に設置された非常用ディーゼル発電機が起動。これで冷却装置も復旧し、事故の発生は防げたように思えたのですが、その50分後、未曾有の事態が起こったのです。

大地震に次ぐ大津波の襲来です。遡上高14、15mの大津波が発電所に到達、海側のタービン建屋が、目撃者によると「まるで爆撃を受けたような」甚大な被害を受けました。

### 故郷・南相馬市 津波は高さ10数mの 防潮林を越えた

警察庁発表（2015年9月10日）で、東日本大震災による死者は1万5893人、重軽傷者は6152人、警察に届出があった行方不明者は2572人です。

この大震災時、私は山陰にいて、テレビの画面にクギツケになっていました。

故郷の福島県南相馬市の状況を中心に、あまりの甚大な災害ぶりに声も出ません。兄弟・親戚や同級生たちの安否が気になり、何度も電話しますが、3日間は誰にも通じない状態が続きました。

南相馬市では震度6弱の地震と、津波が海岸線から約2km付近までの地域を呑み込み、壊滅させられました。特に津波の第3波は大きく、海岸線に設けられた高さ10数mの防潮林を越えた、といえます。



福島第一原発を襲う津波

### 米国流設計思想 「非常用発電機の地下設置」 が致命傷に

しかしこのとき同時に、そこらわすか30kmしか離れていない所でもっととんでもないことが起こっていたのです。

原子炉のブラックアウトです。福島第一原発を強烈な津波が襲った時、それでもまだ、原子炉建屋はしっかりと外形を保ち、原子炉そのもののへの重大な影響はありませんでした。

しかし、トラブルは、非常用発電機と配電盤に起こっていました。

地下に設置されていた非常用ディーゼル発電機が海水に浸かって故障してしまっただけです。

電気設備、ポンプ、燃料タンク、非常用バッテリーなど多数の設備が損傷し、または流失したため、全交流電源喪失状態（ステーション・ブラックアウト）に陥りました。

問題は、非常用ディーゼル発電機と配電盤の位置でした。

両方とも地下に置かれていたため、海水がしみて発電機と配電盤が水びたしになってしまったのです。

これで、外部電源と非常用電源の両方が潰れ、配電盤もやられて、冷却用ポンプが動かず、核燃料の溶融すなわちメルトダウンが発生しました。

原子炉自体の問題でも、燃料棒のコントロールシステムの問題でもなく、ただ水を巡回させて「冷やすこと」だけ出来なかったのです。それが致命傷になりました。

なぜ津波の来る場所の、しかも地下に非常用発電機と配電盤が置かれたのでしょうか。

これは、元をたれば、アメリカに巨大な欠陥品を押しつけられたことによりです。

1971年に営業運転を開始した福島第一原発の原子炉は、米GE社の「マーク1」という欠陥炉だったのです。アメリカ本国でも東海岸にはあるが、地震地帯の西海岸には置いていないというシロモノ。アメリカで売れないため、敗戦国の日本に押しつけられた物件だったというわけです。

国同士の力関係とガチガチの利権がらみで実行された訳ありな商取引でした。

しかも設計・施工業者が米企業だったため、発電機と配電盤が地下に置かれてしまうことになってしまいました。

米本国では、ハリケーンによる暴風や竜巻対策で、地下に配置するのが当然なのですが、その設計思想を日本でそのまま踏襲してしまっただけです。

「マーク1」の欠陥については1985年、NRC（米原子力規制委員会）が日本側に警告していたにもかかわらず、東電はなぜかこれを放置していました。

また、福島第一原発では、運転員が事故を想定した訓練を全く行っていないかつたという事実も明らかになっています。

原発の安全神話というか、盲信の極みです。

### 腐敗した独占企業の 体質こそが問題

福島では、原発事故被害の補償金として一軒当たり数千円から1億円を超えるお金が支払われており、地元では「東京電力とはどれだけ金持ちの会社なのか」という不信の声が聞こえています。

にわかに補償金長者となった被害者たちが、車や家やその他あきれような金の使い方を「頭おかしなやつ」と羨望ややつかみが渦巻いているのです。

国庫（税金）からもすでに4兆円を超す交付がなされています。東京電力の負担は、国の試算では2兆円とされています。東電にそれだけの支払い能力があるという事は、それまで不当ともいえるような利益を上げていたことによりです。

電力会社はトヨタや三菱商事などとは違います。民間会社とはいえ、完全な国策的独占企業だからです。

電気は国民生活はもろろん、あらゆる産業にも不可欠なもので

す。供給が止まったり無くなったりは絶対に困るものです。しかし、その必要性ゆえの優遇策の上に、あぐらをかかれています。

巨額な欠陥品を買わされたり、天文学的数字の賠償金を支払えるほどの利益をむさぼっていたりする電力は、まさに利権の巣窟です。

原発が怖いのは、日本においては科学技術的な問題よりもむしろ、電力業界がこうした汚い利権まみれになっていることでしょう。腐敗した独占企業の体質こそが問題です。

この事故の後、全原発の稼働が停止され、その分の電力を補うための原油やガス輸入で年間5兆円規模の余分な支払いを強いられるのです。これは、全部国民が電気料金によって負担させられているのですから、被害は福島の周辺地域にとどまりません。

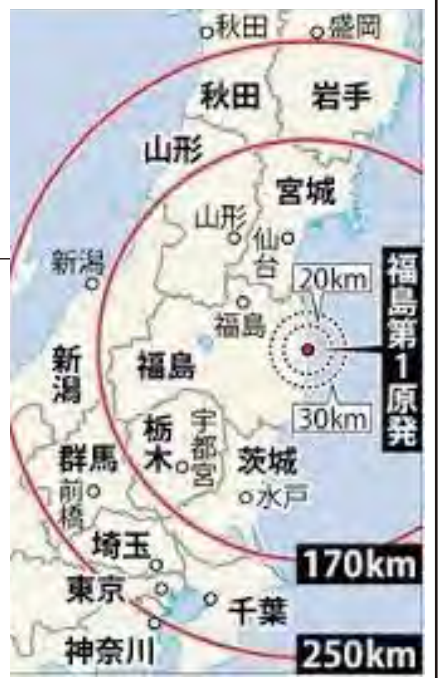
今私が住んでいる山陰には、島根原発があります。日本で唯一県庁所在地にある原発として知られています。

### 住民のしつかりとした監視と 注意が必要

日本の電力会社が設置する原子力発電所としては、関西電力の美浜発電所、東京電力の福島第一原子力発電所に続き、1974年に、全国で3番目に開設されたものです。

2015年4月に廃炉が決まった1号機は、国産の原子炉第一号で、2号機は普及型といわれる、福島第一原発と同じ沸騰水型です。現在建設中の3号機は国内最大出力とされています。

管轄するのは東京電力ではなく、



福島第一原発250km圏内

中国電力ですが、どんな盲点があつて隠れた危険が潜んでいるか分かりません。

2010年、定期検査で実施済みとされた機器の点検交換のうち、点検計画表の誤記載による機器の超過使用が506カ所、点検の誤記載と記載漏れ1159カ所というトラブルがあつたことは記憶に新しいところです。

ところが、つい最近も低レベル放射性廃棄物を処理する機器の点検記録偽造問題が起きています。中国電力は、こうした問題が起きるたびに再発防止策を発表していますが、隠蔽体質、安全意識の低さは企業風土・文化になってしまっているのではと、強く懸念されます。

今はスマートフォン時代で、世界と瞬時にコミュニケーションできます。これを生かし、「究極の火」といわれる原子力を有効に、そして安全に利用するためにも、知識と情報を共有し、原発問題を改めて考え直してみる時ではないでしょうか。

福島への舞にならないうるためにも住民のしつかりとした監視と注意と対話が必要です。それが、地域に密着した原発の問題を契機として、対立・統合・発展のサイクルを繰り返す、新しい「和の文化」創造の可能性を開くチャンスとなり得るかも知れません。

石川 行一

### ◆後記

「ゆう科学通信」は皆様からのご意見、情報を礎に発信していきます。

ご投稿はメール、ファクスでお願いいたします。

## 一村一志

「夢の芽生える文化」創造のプラットホーム  
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な  
地域を創出することをめざして活動します。

### グレゴリー・ヤッコ氏 「島根原発再稼働は」ダズント・メイク・センス

10月9日午前10時から松江市・ホテル一畑で中国地方弁護士大  
会が開かれ、「原発再稼働と避難計画——住民の被ばくは避けら  
れるか」と題するシンポジウム(主催・中国地方弁護士会連合会・島根弁  
護士会)が行なわれました。

メイン講師は米国の物理学者で、元アメリカ合衆国原子力規制  
委員会(NRC)委員長のグレゴリー・ヤッコ氏。



グレゴリー・ヤッコ氏

8年間の委員生活の中で福島  
原発事故への支援が最大の仕事  
だった、という原発の世界的権  
威です。

講演の中でヤッコ委員長が  
くり返し強調したのは、「事故  
は必ず起こる」ということ。ま  
た、米国をはじめ各国とも、規  
制も事故対応策も住民の安全を  
守るものではない、と断定。原  
子炉の設計そのものを抜本的に  
変更し、新しい安全基準を定め  
なければならぬ、と主張しま  
した。

### 人口密集地に隣接している 島根原発に驚愕

とくに島根原発に関しては、  
「これだけの膨大な人口が原発  
の近くに住んでいることに大き  
な驚きを感じている」と述べま  
した。さらに、講演終了後の質  
疑で参加者から「島根原発再稼  
働についてどう思うか」との問

国際的な規制や安全策の不備  
についてヤッコ氏は、米国では  
スリーマイル島の事故を機に法  
整備が進み、細かな避難計画が  
許可の要件になったりしたも  
の、まだまだ不十分であるこ  
とを指摘しています。

この隔離ゾーンの外側に「低  
人口ゾーン」が設けられなけれ  
ばなりません。

その一方で、この事故を受  
け、米国内の原発の安全性に関  
し強硬な姿勢で臨み、規制を強  
化しようとしてきました。

「スリーマイル島事故が起こ  
った時、誰も事故を想定してい  
ませんでした。安全性が信じら  
れていたため事故時の訓練もせ  
ず、対処法も確立していなかつ  
たため事故が拡大しました。そ  
の教訓が福島事故では少しも活  
かされていません」



シンポジウム会場風景

「原発は安全で事故は起こらな  
い」という考え方もあったが、  
『原発事故は起こるものだ』と  
いう基本的な事実を認めないと  
オープンな議論はできない。事  
故は防げないという前提で、重  
大で過酷な事態にならないよう  
にするには、どうすればいいか  
を考えるべきだ」

「原子力の関係者の間では  
『原発は安全で事故は起こらな  
い』という考え方もあったが、  
『原発事故は起こるものだ』と  
いう基本的な事実を認めないと  
オープンな議論はできない。事  
故は防げないという前提で、重  
大で過酷な事態にならないよう  
にするには、どうすればいいか  
を考えるべきだ」

「ゆう科学通信」は皆様からのご意見、  
情報を礎に発信していきます。  
ご投稿はメール、ファクスで  
お願いいたします。  
(石川行一)

今も流れは豊かにあり、周辺は  
なんと新興住宅地へと変わって  
きました。その裏にある剣神社の  
150段の石段を登り、お参りし  
ました。今もなお、昔ながらの石段  
を、村の人達が美しく掃いたあと  
が輝くようでした。  
先人の偉業のおかげで私達が生  
きていけることを深い感謝と共に  
伝えていかねばならないと感じま  
した。  
木南一志(兵庫県豊野市)

「ダズント・メ  
イク・センス  
(意味をなさな  
い)」と、強く  
否定しました。

「スリーマイル島事故が起こ  
った時、誰も事故を想定してい  
ませんでした。安全性が信じら  
れていたため事故時の訓練もせ  
ず、対処法も確立していなかつ  
たため事故が拡大しました。そ  
の教訓が福島事故では少しも活  
かされていません」

「原発は安全で事故は起こらな  
い」という考え方もあったが、  
『原発事故は起こるものだ』と  
いう基本的な事実を認めないと  
オープンな議論はできない。事  
故は防げないという前提で、重  
大で過酷な事態にならないよう  
にするには、どうすればいいか  
を考えるべきだ」

「原子力の関係者の間では  
『原発は安全で事故は起こらな  
い』という考え方もあったが、  
『原発事故は起こるものだ』と  
いう基本的な事実を認めないと  
オープンな議論はできない。事  
故は防げないという前提で、重  
大で過酷な事態にならないよう  
にするには、どうすればいいか  
を考えるべきだ」

「ゆう科学通信」は皆様からのご意見、  
情報を礎に発信していきます。  
ご投稿はメール、ファクスで  
お願いいたします。  
(石川行一)

「原発事故は起こるものだ」  
を前提にオープンな議論を  
では、新しい安全基準とは何  
か? それは一般人の常識に添  
ったシンブルなものだ、とヤッ  
コ氏は言います。「物理的・科  
学的に、何が起こっても、絶対  
に、原発敷地の外に放射能を出  
さない」という基準を満たすも  
のでなければならぬ、と。

「原発は安全で事故は起こらな  
い」という考え方もあったが、  
『原発事故は起こるものだ』と  
いう基本的な事実を認めないと  
オープンな議論はできない。事  
故は防げないという前提で、重  
大で過酷な事態にならないよう  
にするには、どうすればいいか  
を考えるべきだ」

「原子力の関係者の間では  
『原発は安全で事故は起こらな  
い』という考え方もあったが、  
『原発事故は起こるものだ』と  
いう基本的な事実を認めないと  
オープンな議論はできない。事  
故は防げないという前提で、重  
大で過酷な事態にならないよう  
にするには、どうすればいいか  
を考えるべきだ」

「ゆう科学通信」は皆様からのご意見、  
情報を礎に発信していきます。  
ご投稿はメール、ファクスで  
お願いいたします。  
(石川行一)



島根核発電所  
原発 その光と影  
著者 山本謙  
編集 古浦義己  
全370頁  
定価2500円+税

寄稿  
「悠久の河一周藤彌兵衛翁物  
語」を拝読しました。  
実在の人物が実際に山を削り、  
代々受け継がれてきた志を確かめ  
たくて、休日に八雲町に行つてま  
いました。  
確かに「出雲の国」があつたであ  
ろうと思われる山の中に熊野大社  
があり、荘厳で広い境内は歴史絵  
巻のような建物、石碑でした。  
イザナミのお墓とされる岩坂陵  
墓の前を流れる意宇川。見ただけ  
で分かりました。山が半分削られ  
て、川の流れがありました。河原に  
降りてみて、老人の手でできるも  
のではないと、立ちすくんでしま  
いました。

## 《本のご案内》

### 島根核発電所 原発 その光と影

山本 謙 著  
古浦義己 編  
企画：一般財団法人人間自然科学研究所  
発行：三和書籍  
A4判378頁  
定価：4500円＋税



島根原発と松江市の街並み

著者略歴：1929年、島根県松江市(旧東出雲町)生まれ。1946年、松江農林学校卒業後、島根県職員となる。経済部、土木部、総務部を経て、厚生部業務環境衛生課公害係長、環境保健部公害課主幹及び課長補佐として、一貫して島根原子力発電所の立地と放射能対策等に関する業務を担当。以後、企画部、商工労働部、島根県人事委員会事務局長を務め、1986年退職。現在、山本行政書士事務所長。

著者略歴：1929年、島根県松江市(旧東出雲町)生まれ。1946年、松江農林学校卒業後、島根県職員となる。経済部、土木部、総務部を経て、厚生部業務環境衛生課公害係長、環境保健部公害課主幹及び課長補佐として、一貫して島根原子力発電所の立地と放射能対策等に関する業務を担当。以後、企画部、商工労働部、島根県人事委員会事務局長を務め、1986年退職。現在、山本行政書士事務所長。

「設計上想定していない事態が起こり、安全設計の評価上想定された手段では適切な炉心の冷却又は反応度の制御ができない状態になり、炉心溶融、又は原子炉格納容器、破損に至る事象」。

「平成23年3月11日は、日本人にとって忘れることの出来ない日となった。宮城県牡鹿半島の東南東沖130キロ、仙台市東方沖70キロの太平洋海底を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生した。日本周辺における観測史上最大の地震である。地震とそれに伴う津波、およびその後の余震によって引き起こされた大規模地震災害と、地震による福島第一原子力発電所事故が起こった。かつて、私は

「夢の芽生える文化」創造のプラットホーム  
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な地域を創出することをめざして活動します。

島根県厚生部業務課環境衛生課の公害係長として島根原子力発電所を担当したことがあり、遠い東北での災害ではあるものの、まるで我がことのように思えた。本書執筆への著者の想いが、「はじめに」にこう記されている。

世界を震撼させた福島原発事故からまもなく5年。鹿児島県内の川内原発は運転を始め、他にも再稼働に向けた準備が加速しようとしている。

「このように規定されている「レベル7」の、あの福島の「過酷事故」から、この国と電力会社は、ほんとうに学んだのか？ 科学の限界に謙虚に向き合い、気の遠くなるような年月、地球環境を汚染し続け、人類の未来を脅かす未熟な技術について深刻に反省したのか？ わずか5年足らずで、すでに風化が始まっているのではないか？」

「こうして改訂交渉を始めることになったが、これからがまた大変であった。(中略)このことで、某新聞の県政記者から、近いうちに知事と県政記者との懇談会がある、君の問題を取上げて『首にしてやる』と言われた。」

## 島根原発はこうして始まった。 市民ひとりひとりが核発電について 考えるための入門書・資料に最適

「ある意味では坦々と紡いでいる。それだけに、当事者だけが経験し、知ることのできる「インサイド情報」が短く書き込まれた箇所が光る。」

「転開始後において、振動計の故障や核燃料棒の欠陥などが相次ぎ起こったが、中国電力(株)からは何も県には連絡されなかった。マスコミは、相次ぐ事故騒ぎで「安全協定効果なし」等と連日大きく報道されるので、担当者としては席にしばらく、既に営業運転をしている先進県である、福井県・茨城県に出向き担当課長と相談することにした。」

## 一村一志

「夢の芽生える文化」創造のプラットホーム  
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な地域を創出することをめざして活動します。

「原発推進で既得権益のある政治家、企業、官僚、研究者、そしてマスコミからなる、いわゆる「原子力村」の底冷えのするような実態の片鱗が、さりげなく描かれている。」

「ゆう科学通信」は皆様からの  
ご意見、情報を礎に発信していきます。  
ご投稿はメール、ファクスで  
お願いいたします。

「原発推進で既得権益のある政治家、企業、官僚、研究者、そしてマスコミからなる、いわゆる「原子力村」の底冷えのするような実態の片鱗が、さりげなく描かれている。」

「ゆう科学通信」は皆様からの  
ご意見、情報を礎に発信していきます。  
ご投稿はメール、ファクスで  
お願いいたします。

「原発推進で既得権益のある政治家、企業、官僚、研究者、そしてマスコミからなる、いわゆる「原子力村」の底冷えのするような実態の片鱗が、さりげなく描かれている。」

「ゆう科学通信」は皆様からの  
ご意見、情報を礎に発信していきます。  
ご投稿はメール、ファクスで  
お願いいたします。

「原発推進で既得権益のある政治家、企業、官僚、研究者、そしてマスコミからなる、いわゆる「原子力村」の底冷えのするような実態の片鱗が、さりげなく描かれている。」

「ゆう科学通信」は皆様からの  
ご意見、情報を礎に発信していきます。  
ご投稿はメール、ファクスで  
お願いいたします。

「原発推進で既得権益のある政治家、企業、官僚、研究者、そしてマスコミからなる、いわゆる「原子力村」の底冷えのするような実態の片鱗が、さりげなく描かれている。」

「ゆう科学通信」は皆様からの  
ご意見、情報を礎に発信していきます。  
ご投稿はメール、ファクスで  
お願いいたします。



島根とお雇い外国人技術者たち  
—島根の近代化産業遺産物語—  
岡崎秀紀 著  
変型A5判342頁

島根県内において、「お雇い」といえば、明治23年に教育者として来島した、L・ハーンと結びつく方も多いでしょう。中央で著名なお雇い外国人技術者が、明治の時代に県内を訪れ、たたら製鉄や银山といった伝統的産業ばかりでなく、水道、灯台、港湾といった近代のインフラ建設の分野で、関わりを持っていったことを見出し、驚くとともに、喜びもしました。(「はじめに」より)

### 「福島」を繰り返さないために

2011年3月11日の東日本大震災と、それに続く東京電力福島第1原発事故から5年を迎えました。警察庁や復興庁などのまとめによると、震災の死者は全国で1万5894人、行方不明者は2561人。震災後の体調悪化や自殺による震災関連死は3407人。避難者は今も17万4471人、仮設住宅入居者は5万7677人に上ります。

### 運転中の高浜原発の停止命令

政府は、震災から5年間で「集中復興期間」と定め、26兆3000億円の復興予算が投じられ、今後5年間は「復興・創生期間」として6兆5000億円が充てられることになっています。そして、この5年を節目として、政府や電力業界は原発回帰を急ごうとしています。

昨年、鹿児島県の川内原発が運転を始めたのに続き、今年に入り、福井県の高浜原発が再稼働。現在、愛媛県の伊方原発はじめ22基の原発が、原子力規制委員会の新規規制基準での適合審査を求めて、再稼働申請を行っています。



2014年11月23日、松江市で開催されたシンポジウム「八雲立つ出雲から陽が昇る」

### 子供たちの将来より 今のカネ

日本の原子力政策を振り返ると、1974年、田中角栄内閣の時「電源三法」（電源開発促進税法、電源開発促進対策特別会計法、発電用施設周辺地域整備法の総称）が成立。過疎化に悩む地方自治体は原発誘致で転がり込む交付金によって地域振興を図ろうとし、原発建設に拍車がかかりました。

1983年、高木孝一敦賀市長（当時）は石川県志賀町で開かれた「原発講演会」で、こう発言しました。「敦賀2号機のカネが7年間で42億入ってくる。三法のカネが7年間でそれだけ入ってくる。それに『もんじゅ』がございまして…入っ

てくるカネが60数億円になろうかと思っておるわけがございまして…まったくタナボタ式の街づくりができるんじゃないか、と…その代わりに100年たつて片輪が生まれてくるやら、50年後に生まれた子どもが全部片輪になるやら、それはわかりませんよ。わかりませんが、今の段階では（原発を）おやりになった方がよいのではなからうか」。

子どもたちの将来を犠牲にして、今のカネが大事—日本の原発は、過疎化で疲弊する地方の切実な状況を背景に、高木元市長の言葉が示すような、根深い退廃を是らんで進められてきたと言えるでしょう。ちなみに、かつて原発推進の自民党議員連盟の事務局局長を務め、今、復興担当大臣である高木毅氏は、高木元市長の息子です。

そして、原発に限らずこうした事業を誘致した場合、政治家には投資金額の1〜3%がリベートとして懐に入るという説があります。原発1基3000億円とすれば、リベートは30〜90億円。これもがもし事実とすれば、インターネットを皮切りに週刊誌などを通じて暴露かれ、拡散される日も近いのではないのでしょうか。

### 福島県内の小中学校 周辺の土壌汚染報道

今、注目されている週刊誌記事があります。「女性自身」3月22日号（光文社）に掲載された「福島県60小中学校周辺『放射性物質』土壌汚染調査 8割の学校で18歳未満立ち入り禁止の数値が出た！」と題する記事です。

同誌がNPO法人市民環境研究所に依頼し、福島県内の小中学校周辺、約60か所の土壌をランダムに採取し、土壌に含まれる放射性セシウム137を調査したところ、約8割で「放射線管理区域」の指定を受ける4万ベクレル/mを超えてる高い数値が観測されたという

のです。放射線管理区域とは、放射線による障害を防止するために、法令で管理されているエリアのこと。「一般人は放射線管理区域の立ち入りが禁止。さらに、18歳未満は就労も禁止。大人であっても10時間以上の就労は禁止、飲食も禁止」という厳しい規定です。

もうひとつ、ジャーナリストの岩上安身氏が率いる「IWJ」というインターネット放送局の報道を紹介いたします。東京電力は福島原発事故の原因について、13mという「想定外」の津波に見舞われて外部電源が喪失してしまったため、と繰り返してきました。しかし、事故3年前の2008年に東電は「15・7mの津波に襲われる危険性」を試算し、「津波対策は不可避」という方針を出していたことが、検察審査会が明らかにした内部資料で明らかになった、というのです。しかも、試算が出たあと、東電では「10mの地盤の上に10mの防潮堤を立てる計画」が立てられていました。しかし、この計画は、当時の経営幹部によつて「数百億円の費用がかかる」などの理由で「却下」されたというのです。つまり、この判断が途方もない「人災」を招いてしまったわけ

### 島根原発を世界遺産に

2011年3月11日に起きた、マグニチュード9.0、最大震度7の東北地方太平洋沖地震は、平安時代の貞観（じょうがん）11年（869年）に、東北地方を襲ったマグニチュード8.4と推定されている「貞観地震」の再来ではないかと言われています。

問題は、この前後に立て続けに起きた地震や火山の噴火などの大災害です。表をご覧ください。貞観地震の5年前には富士山、阿蘇山の大爆発、9年後には関東地方でマグニチュード7.4の地震、18年後にマグニチュード8.5の南海大地震（仁和地震）が起きて

います。日本はアメリカ、フランスに次ぐ3番目の原発大国です。2011年3月11日以前には、いつ大災害が起きるか分からない、この地震・火山列島に実に54基もの原発が稼働していたのです。「狂気の沙汰」と言うしかありません。

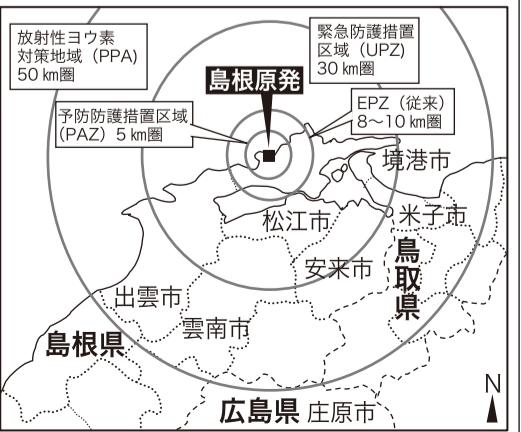
2015年10月9日、松江市で講演したアメリカの原子力規制委員会（NRC）の元委員長、グレゴリー・ヤツコ氏は、「30キロ圏に46万人が住む」島根原発の再稼働について「それはきちがい沙汰です」と言い切りました。

ヤツコ氏は、アメリカでは避難計画が許認可の要件になっていることや、原子炉と周辺住民が離れていることを求める「離隔要件」があることなども説明しました。

関西電力の高浜原発3、4号機の運転差し止めを求める仮処分申し立てで、大津地裁判事は、「福島原発事故を踏まえた事故対策や津波対策、避難計画についても疑問が残る。住民の生命や財産が脅かされるおそれが高いにもかかわらず、関西電力は安全性の確保について説明を尽くしていない」と述べ、「自治体ごとではなく、国主導で事故時の避難計画を策定すべき」と指摘しました。

今回の大津地裁の判断で、なし崩しの再稼働に対して、ひとまずくさびが打ち込まれましたが、現にある原発設備、核燃料と使用済み核燃料

の再稼働に対して、ひとまずくさびが打ち込まれましたが、現にある原発設備、核燃料と使用済み核燃料



2015年4月に廃炉が決まった島根原発1号機は、国産の原子炉第一号で、2号機は普及型といわれる、福島第一原発と同じ沸騰水型。現在建設中の3号機は国内最大出力とされています。人間自然科学研究所の小松昭夫理事長は、このように3種の原子炉の揃った他に例のない島根原発を「世界遺産に！」と提案（2014年11月23日、松江市のくにびきメッセで約600人を集めて開催されたシンポジウム「八雲立つ出雲から陽が昇る」で発表）。「社会問題は資源。地域に密着した原発の問題を、共感のステージの上で対立・統合・発展のサイクルを繰り返す、新しい『和の文化』創造に向かう入り口として生かすこと」と指摘しています。耳を傾けるべき課題設定のひとつと言えるのではないのでしょうか。

**島根核発電所  
原発その光と影**

著者 山本 謙  
企画 人間自然科学研究所  
発行 三和書籍

定価 4,500円(税別)